

# ジェンダーレンズ投資とジェンダーレンズ投資ファンド

松尾 順介

はじめに

近年、世界的にSDGsへの関心が高まるなか、ジェンダーについての注目が高まっている。特に、日本では、様々な場面においてジェンダーバイアスの存在が指摘されるとともに、日本のジェンダーギャップ指数は世界的に低位であることも報じられている。

周知のように、世界経済フォーラム (World Economic Forum : WEF) が二〇二二年三月に公表した『The Global Gender Gap Report 2021』では、日本の順位は一五六か国中一二〇位であり、前回の一五三か国中一二一位とほぼ変わらず、東アジアおよび太平洋圏の諸国においてきわめて低い位置づけとなっている。また、同レポートでは、完全不平等を〇とし、完全平等を一とするスコアを計測し、総合および分野別のスコアを数値化しているが、総合は〇・六五六、経済〇・六〇四、政治〇・〇六一、教育〇・九八三、健康〇・九七三となっており、政治は一五六か国中一四七位、経済は同一一七位となっている。経済については、女性の管理職の割合が低位であること (一四・七%)、女性の就業率は七二%であるもののパートタイムでの就業率は五〇・八%であり、男性二二・二%のほぼ二倍であること、さらに女性の平均所得は男性より四三・七%低くなっていることが指摘されている<sup>(1)</sup>。

このようなジェンダーバイアスの存在を見極める認識の枠組みとして、ジェンダーレンズ (gender-lens) と

いう概念がある。このジェンダーレンズのとらえ方は、論者によってややニュアンスが異なるように思われ、必ずしも明瞭ではないが、様々なジェンダーバイアスを可視化する手段として提唱されたと考えられる。

さらに、このようなジェンダーレンズという観点から行われる投資がジェンダーレンズ投資とされており、インパクト投資の一つと位置づけられている。具体的には、女性起業家への投資、職場のジェンダー平等を促進する企業への投資、女性の生活を飛躍的に向上させるサービスを提供する企業への投資などである。<sup>(2)</sup>

最近では、ブラックロックと国連のジェンダー平等と女性のエンパワメントを専門とするUN Womenがジェンダーレンズ投資の成長を促進するために協力することに合意する覚書に調印したことが発表されている。<sup>(3)</sup>

本稿では、ジェンダーレンズ概念を紹介した上で、ジェンダーレンズ投資について考察する。

## 1 ジェンダーレンズとは

ジェンダーレンズに関するモノグラフとしては、Bem[1993]を挙げることができる。ここでは、ジェンダーのレンズについて「セックスやジェンダーについてなされてきた暗黙の前提は、文化的論議、社会制度、さらには個々人の心理のなかに微妙に組み込まれており、世代から世代へと目に見えない形で男性の権力を組織的に再生産してきた。こうした前提をジェンダーのレンズと呼ぶ」と規定されている。つまり、ジェンダーのレンズとは、「レンズ」を通して物事を見るのではなく、すでに組み込まれている「レンズ」そのものであり、このレンズを見据えなければならぬことが強調されている。

Bem[1993]は、ジェンダーのレンズとして、具体的には以下の三つを取り上げている。

① 生物学至上主義というレンズ…

これは「生物学的理論化を図ることで社会的不平等を自然にかなったもの」<sup>(4)</sup>とみなす主張を意味している。このような主張は人種差別の根拠づけとなっただけでなく、生物学的性差を根拠とした性差別の根拠づけにも使われた。なお、本書において著者は、性差や不平等に関する二つの疑問を提起している。それは、①なぜ男女は集団として地上のほとんどの社会で不平等な役割を演じてきたのか？②なぜ男女は個人として異なった行動傾向をもつようになったのか？という問いである。この問いに対して、著者は簡単な答えとして、男女間の生物歴史的な相違がかつては存在し、それによって不平等な役割が賦与されたとしても、現代の技術革新はそれらの相違をかなりの程度無意味なものとしたにもかかわらず、いったん作り出された性別による分業や政治的権力の制度化は、世代を超えて今も維持され、再生産されている。したがって、重要なことは、男性支配の生物歴史の起源ではなく、現代の文化的制度そのものであるとしている。<sup>(5)</sup>

② 男性中心主義というレンズ…

ここではユダヤ・キリスト教以降近代にいたるまでの男性中心主義の言説がトレースされ、アメリカの平等権利法についても、その歴史を振り返れば、男性支配的な家庭の中で家事的・生殖的機能という点から女性を定義すること、男性の基準から逸脱しているものとして女性を定義することといった考え方が深く浸透していたことが指摘され、その結果、歴史的に女性の様々な権利は制限されたと論じられている。<sup>(6)</sup>

③ ジェンダーを両極化するレンズ…

著者は、ジェンダーを両極化する見方や考え方は、社会生活だけでなく、性差をめぐる生物学的二分法が様々な局面で当てはめられてきたことを指摘し、その結果①男女は互いに相いれないものであるという考え方、

②男（女）であることからの逸脱を問題視する考え方、などが生じ、特に異性愛主義はジェンダー両極化の典型となったことを指摘している。<sup>(7)</sup>

以上のようにジェンダーのレンズについて、著者は三つの観点から考察した上で、ジェンダー両極化を乗り越えて、理想とするヴィジョンとして、生殖といった狭い意味での生物学的文脈を除いて、文化的にも心理的にも男女のちがいが何も体系化されることのない社会を提示している。ここでいう体系化されないとは、男らしさ、女らしさ、異性愛、同性愛などの発想それ自体が文化的に意識されないことを意味するという。つまり、ジェンダー両極化の問題を整理すると、①男性と女性をそれぞれ等質化し、それぞれの多様性や重複を排除し、多様な人間性と矛盾する。②男女を二分することで世の中のことを二タイプに二分してしまい、二分できないという事実を反映する概念が持てない。③男性や女性であることの意味を過度に拡張し、そこから逆説的に文化的概念（例えば、真の男性や女性という概念）を作り出し、ひたすらそれに向う努力を強いた。その結果、制度的レベル、心理的レベルおよびイデオロギー的レベルでの両極化が生じた。制度的には、男女を雇用賃金と家事育児とに分割し、女性が経済的・政治的な力にアクセスすることが否定され、心理的には、アイデンティティやパーソナリティにおいて男性権力の再生産を助け、イデオロギー的には、性の不平等を男女の違いに起因させることで男性中心主義のレンズを見えなくした。著者は、結論としてジェンダー両極化を取り除くためには、男性中心主義を一掃することが最も効果的としている。<sup>(8)</sup>

ただし、この用語がどの程度、フェミニズムや社会学や思想関係の分野で周知され、また支持されているのかについては明らかでないが、EBS COの検索では、三三五件の論文がヒットした。<sup>(9)</sup>ただし、国立情報学研究所のCiNiiの検索では、Gender-lensについては、論文三件（うち邦語二件）と書籍一二件（邦語〇件）がヒットする

に過ぎない。また、この用語がここで取り上げるジェンダーレンズ投資というカテゴリーの名称に採用された理由についても定かでない。

## 2 ジェンダーレンズ投資とは

前述のように、ジェンダーレンズ投資 (Gender-lens investing) とは、様々なジェンダーバイアスを改善するための投資であり、インパクト投資のひとつと位置づけられる。また、この用語は、二〇〇九年にアメリカの NPO、Criterion Institute が新興分野の定義と開発のために考案したとされる。したがって、ここでは、同 NPO のジェンダーレンズ投資についての考え方を紹介する。

同 NPO は、二〇〇二年に設立され、ベンチャーファンドの設立から国際機関と連携した革新的プログラムを主導するとともに、社会変革のための金融スキームのシンクタンクとして活動している。その一環として、ジェンダーレンズ投資の開発などに取り組んでいる<sup>(10)</sup>。

なお、同 NPO の創設者兼代表者は、Joy Anderson という女性で、ニューヨーク大学でアメリカ史の博士号を取得している。なお、学位論文では一八三〇年代の刑務所改革を取り上げている。同氏はビジネスと社会変革を結合させる分野における著名な全国的リーダーであり、その目利き力と経験によって、インパクト投資やジェンダーレンズ投資のみならず、数百のベンチャーの立ち上げに寄与してきた。これらの活動によって、同氏は二〇一一年、Fast Company 社の 100 Most Creative People in Business のリストに名を連ねている (同年には、Tesla Motors の Elon Musk などもリスト入りしている)<sup>(11)</sup>。この間、彼女は Good Capital の共同創設者となるとともに、ソーシャルイノベーションプログラムの指導者を務め、インパクト投資の次世代リーダーにも助言するとと

もに、BloombergやCNNなどのメディアにも出演し、二〇一五年に『Gender Lens Investing in Asia』、続く二〇一七年には、『A Blueprint for Women's Funds on Using Finance as a Tool for Social Change』を刊行している。なお、同NPOの主要メンバー二〇名中一六名は女性であり、理事会メンバー八名中女性は七名である。<sup>(27)</sup>

同NPOによれば、投資機会を明らかにするためのファインダーとしてジェンダーレンズを扱い、ジェンダーレンズ投資という新分野においても、経済発展の促進、収益性の改善、社会的インパクトの拡大および持続的かつ堅実な変化のための投資機会があることは明らかであるという。その際、投資におけるジェンダーレンズの利用を確立するために、投資コミュニティに関連した三つの独立した分野を設定している。ただし、これらの三つの分野は関連性を有するものである。さらに、これらの三つのレンズを利用して投資判断を分析することによって、ジェンダーレンズ投資家は、今後の投資が女性に与える影響について、プラス、マイナスおよびゼロの評価を開始できる。その三つの分野とは、以下である。<sup>(13)</sup>

① 職場における男女共同参画

フォーチュン五〇〇企業の上級管理職であろうと、南米の農村農業協同組合の現場労働者であろうと、政策、訓練および機会均等によって、よりジェンダー平等な職場改善を促す可能性がある。より平等な職場を作るための戦略は、効果的な取り組みが行われれば、女性の職業上の安全と進歩の機会の改善につながり、結果的に経済分野における女性と男性の間の不必要でしばしば不平等なギャップや不均衡を徐々に解消するのに役立つ。このレンズで女性を支援しようとする投資家は、職場内の男女共同参画を精査し、その調査結果に基づいて投資を決定するとともに、株主の力を利用して社内の方針に影響を与える。この投資コンセプトに関する二つのパイオニアとして、Pax Global Women's Equality FundとRoot Capitalが挙げられる。

## ② 女性のための資本へのアクセス

既存の研究成果は、資本へのアクセスにおいて男女間で大きな格差があることが示されており、その格差は、少額融資を求める家計企業からベンチャー資金を求める大規模なビジネスモデルを企画する女性起業家まで広く一般的にみられるものとなっている。この格差は、様々な要因に起因するものと考えられるが、いずれにしても以下の取り組みは可能であると考えられる。

この格差は制度的に推進あるいは強化されており、経済成長とイノベーションの双方の障害となっているものと推測されるが、今や資金調達モデル全体において進展が見られ、資本へのアクセスの男女格差を緩和する可能性も明らかになっている。例えば、エンジェル投資家ネットワークである、Golden Seedsは、潜在力の高い女性起業家にシード資金を提供し、Village Capitalは、資金配分について、より民主的なピアレビューアプローチを導入した。どちらのモデルも他よりも多数の女性が資本にアクセスできるようにしたという点で同じ結果をもたらした。

## ③ 女性に利益をもたらす製品とサービス

このレンズは、生殖や母体の健康改善からダイケアサービスに至るまで、様々な製品を販売する幅広いビジネスモデルを網羅している。一般に、このレンズを通して明らかにされた投資は、生理学的なものである、あるいは社会的なものであれ、女性の消費者に特有のニーズに応えるものである。このニーズを満たすために、これらの企業は、女性に課せられる負担を軽減し、女性に力を与えることによって女性の状態を改善し、最終的には、世界の女性の完全な社会参加と生産性向上を促進する。資本市場には、これらの革新的なビジネスモデルにより多くの資本を導入し、その範囲と影響を拡大するためのメカニズム（ジェンダーレンズなど）が組み込まれてい

る。

なお、これらのビジネスモデルは、重複を含むとともに、これ以外でも女性の状況を改善する取り組みがあり、その中には今後あるいはすでに適切な役割を果たす、あるいは果たしているものも含まれると考えられる。

### 3 ジェンダーレンズ投資の規模

このようなジェンダーレンズ投資が拡大しているといわれているが、その投資規模については、Parallèle Finance (2022)がかなり詳しいデータを公表している。その要点は以下の通りである。<sup>(14)</sup>

- ① 公募のジェンダーレンズエクイティ投資ファンド（GLEF）は、二〇二一年末には総資産額四〇〇億ドルに達しており、第四四半期に一二％増加した。
- ② 二〇二一年のGLEFグループの総資産増加率は、五一％であった。
- ③ グローバルエクイティファンドは一〇、リージョナルエクイティファンドは一七であり、いずれも個人投資家向けで、米国、カナダ、EU、韓国、日本にある。
- ④ ジェンダーレンズ固定利付債ファンドの総資産額は、二〇二一年末の八五億ドルで、第四四半期はほぼ横ばいであった。内容的には、米国および新興市場のファンド、金融債の私募、開発金融機関（DFI）の保証債、米国の社債およびCD、貸付型クラウドファンディングである。

- ⑤ 二〇二一年のジェンダーレンズ固定利付債ファンドの総資産額の増加率は、七五％であった。
- ⑥ Diversity, equity, and inclusion（DEI）ファンド、二〇二一年末の総資産額は一億九八〇〇万ドルに達し、これらの成長中のファンドグループは、堅実なDEIポリシーを有する企業に投資のフォーカスを定めている。



また、同レポートでは、様々な観点から興味深いデータが示されているので、主だったデータを紹介すると以下である。

まず、上位一二のGLEFとしては、以下が挙げられている。

この一二のファンドの合計資産額は、三七四二百万ドルで、市場シェアは九・四％に達するとともに、UBSやFidelityなど大手金融機関も散見される。

次に、GLEFのパフォーマンスについては、同レポートでは二〇二一年末の各ファンドのデータが示されており、年間パフォーマンスの上位一〇ファンドを順番に挙げると以下である。なお、複数のジェンダーレンズ指数も算出されており、MSCI USA Womens Leadership Index (Net)：二〇・七九％、MSCI World Womens Leadership Index (Net)：一七・七三％、Solactive Equileap Global Gender Equality NTR Index：一六・〇％と並びつゝる。ただ、S&P 500 Net Total Return Index：二八・一六％と比較すると、これらの指数はそ

図表1 上位12のGLEF

順位	ファンド名	総資産額 (百万ドル)	シェア (%)
1位	Pax Ellevest Global Women's Leadership Fund (investor class)	1,019	2.5
2位	UBS Global Gender Equality UCITS ETF	961	2.4
3位	RobecoSAM Global Gender Equality Impact Equities Fund	361	0.9
4位	SPDR SSGA Gender Diversity Index ETF	289	0.7
5位	Nordea Global Gender Diversity Fund (Nordea SICAV1)	239	0.6
6位	Mirova Women Leaders Equity Fund	216	0.5
7位	Fidelity Women's Leadership Fund	158	0.4
8位	Desjardins Socie Terra Diversity Fund	156	0.4
9位	Ampega Diversity Plus Aktienfonds	115	0.3
10位	BMO Women in Leadership Fund+	101	0.3
11位	NEXT FUNDS MSCI Japan Empowering Women Select Index ETF	66	0.2
12位	Lyxor Global Gender Equality (DR) UCITS ETF	61	0.2
	合計	3,742	9.4

(出所) Parallele Finance (2022) p. 4より作成。

れを下回っている。

第三に、GLEFの総資産額の投資分野別割合をみたものが以下である。MSCI ACWIと比較すると、金融、一般消費財、ヘルスケアおよび消費必需品の分野が相対的に高くなっていることがわかる。この要因としては、金融部門の場合、女性起業家支援など、女性の資金ニーズに対応する取り組みが考えられる一方、消費財やヘルスケア部門では、フェムテック<sup>(15)</sup>といわれる取り組みが含まれているものと推測される。逆に、IT、資本財、通信サービス、素材、公益事業、不動産およびエネルギー分野は相対的に低くなっている。

第四に、GLEFの国別の割合をみると、以下となる。これを見ると、米国の割合が突出して大きいことがわかる。また、二〇二〇年と二〇二一年の比較では、米国、英国、イタリアなどがその割合を高めているのに対し、カナダ、オーストラリアおよび日本は下げていることがわかる。また、いわゆる先進国の割合が高くなっており、途上国や低開発国での取り組みが遅れていると考えられる。

図表2 年間の高パフォーマンスのGLEF

	ファンド名	通貨	年間 パフォーマンス
1位	RobecoSAM Global Gender Equality Impact Equities Fund	ユーロ	31.66
2位	Valeurs Feminines Global	ユーロ	26.44
3位	Nordea Global Gender Diversity Fund (Nordea SICAV 1)	米ドル	25.94
4位	Barclays Women in Leadership ETN	米ドル	25.58
5位	RBC Vision Women's Leadership MSCI Canada Index ETF	カナダドル	25.10
6位	AVA Gender Equality Tracker	スκανジナビア・クローネ	24.76
7位	Glenmede Women in Leadership U.S. Equity Portfolio	米ドル	24.54
8位	Ampega Diversity Plus Aktienfonds	ユーロ	22.96
9位	BMO Women in Leadership Fund ETF	カナダドル	21.76
10位	BMO Women in Leadership Fund	カナダドル	21.75

(出所) Parallele Finance (2022) p. 5より作成。

図表3 GLEFの総資産額の投資分野別割合 (2021年末)

部門	GLEFの総資産に占める割合 (%) (A)	MSCI ACWIの割合 (%) (B)	AとBの乖離 (A - B)
IT	21.0	23.6	-2.6
金融	16.5	13.9	2.6
一般消費財	12.8	12.4	0.4
ヘルスケア	12.6	11.7	0.9
消費必需品	8.9	6.8	2.1
資本財	7.3	9.6	-2.3
通信サービス	4.4	8.6	-4.2
素材	3.9	4.7	-0.8
公益事業	1.7	2.7	-1.0
不動産	1.1	2.7	-1.6
エネルギー	0.5	3.4	-2.9
その他	8.3	0.0	8.3
現金	0.9	0.0	0.9
合計	100.0	100.0	

(出所) Parallele Finance (2022) p. 20より作成。

図表4 GLEFの国別の割合

国名	2021年末(A)	2020年末(B)	A - B
米国	61.5	57.8	3.7
フランス	6.6	6.2	0.4
英国	6.2	5.1	1.1
カナダ	4.2	7.4	-3.2
オーストラリア	3.0	3.2	-0.2
日本	2.3	2.5	-0.2
スイス	1.4	0.8	0.6
ドイツ	1.2	0.8	0.4
ノルウェー	1.2	0.8	0.4
イタリア	1.0	0.1	0.9
上記の合計	88.6	84.7	3.9
その他	11.4	12.8	-1.4

(出所) Parallele Finance (2022) p. 21より作成。

米国のAlphabet (通信サービス・米国)、Salesforce (IT・S&P Global (金融・米国)、Schneider Electric (資本財・フランス)などが挙げられており、<sup>16)</sup> いわゆる優良銘柄が多数含まれていることがわかる。

最後に、上位10ファンドの保有企業をみると、Microsoft (IT・米国)、Accenture (IT・アイルランド)、Apple (IT・米国)、Amazon (一般消費財・米国)、Estee Lauder (消費必需品・米国)、Anthem (ヘルスケア・米国)、Salesforce (IT・

## まとめ

本稿では、ジェンダーレンズという概念を踏まえた上で、ジェンダーレンズ投資の考え方を紹介するとともに、ジェンダーレンズ投資ファンドの規模や内容を概観した。

まず、このような投資は、ESGやSDGs投資への関心の高まりが背景にあり、その一環として注目が高まっているものと考えられ、実際国内外で様々なファンドが組成され、活動していることがわかる。

次に、入手できたデータからは、このようなファンドについて、かなりの規模の市場が形成されているだけでなく、増加傾向にあることも示唆される。また、一定のパフォーマンスを達成していることも示されている。

第三に、ファンドの投資先については、世界的な有名企業が含まれており、ジェンダーレンズ投資ファンドの独自性や個性について、必ずしも明らかでない。

したがって、今後このようなファンドが成長するかどうか不確実ではあるものの、内外のファンドの実情やその取り組みについて、より立ち入った調査・研究を重ねる必要があるものと思われる。その際の研究上の注目点としては、①これらの投資がジェンダーバイアスを改善する方向に寄与しているのか、②LGBTなどを考慮すると、女性に限定することは妥当か、③多様性を考慮した投資の必要性があるのではないか、といった点が挙げられる。

特に、ジェンダーバイアスという格差はどのようにして解消されるのか、またどういう状態になれば解消されたといえるのかについては、様々な分野の研究蓄積や社会的合意などを踏まえる必要があることは言うまでもない。

かつて高坂正堯はその著書『国際政治』において、「富の格差について考えるとき、存在する富だけを考えて

はならない<sup>(17)</sup>と述べた。これは、かつての植民地政策が南の諸国の富を産む能力をも破壊したことを論じたものであるが、単に南北問題だけでなく、格差を論じる際には、それがなにゆえに生じたのか、さらにそれが将来的にどのような格差を再生産するのかについて考えていくことが重要だと思われる。

〔謝辞〕本稿作成に際し、石川明人氏、伊豆久氏、清水葉子氏、宋知潤氏、中川辰洋氏、中野瑞彦氏、二上季代司氏、松尾由美氏、水沼友宏氏、矢口沙綾氏からご協力ご教示を賜りました。厚く御礼申し上げます。なお、本稿は、桃山学院大学共同研究プロジェクト(二〇連二七七・デジタル・ファイナンスによる地域活性化の可能性)の成果の一つです。同プロジェクトによる支援に厚く御礼申し上げます。

注

- (1) World Economic Forum (2021)´ p. 37.
- (2) ゼブラアンドカンパニー´ <https://www.zebrasand.co.jp/about>
- (3) BlackRock, 'BlackRock and UN Women to Promote Gender Lens Investing' (May 25, 2022), [https://www.blackrock.com.translate.google/corporate/newsroom/press-releases/article/corporate-one/press-releases/blackrock-and-un-women-to-promote-gender-lens-investing?\\_x\\_tr\\_sl=auto&\\_x\\_tr\\_tl=ja&\\_x\\_tr\\_hl=ja&\\_x\\_tr\\_pto=wapp](https://www.blackrock.com.translate.google/corporate/newsroom/press-releases/article/corporate-one/press-releases/blackrock-and-un-women-to-promote-gender-lens-investing?_x_tr_sl=auto&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=wapp)
- (4) Bem (1993)´ 邦訳七八頁。
- (5) 前掲、邦訳三七頁。
- (6) 前掲、邦訳六九頁。

- (7) 前掲、邦訳八八頁。
- (8) 前掲、邦訳二二二頁。
- (9) 検索対象期間は一九八五年以降とし、対象媒体を学術誌（査読）として検索した。
- (10) 同社HP <https://criterioninstitute.org/about/our-history>
- (11) FAST COMPANY, "THE MOST CREATIVE PEOPLE IN BUSINESS 2011" 参照。このリストには、日本人では、深澤直人や岩崎夏海がリスト入りしている。 <https://www.fastcompany.com/most-creative-people/2011>
- (12) 同社HP <https://criterioninstitute.org/about/people>
- (13) 同社HP <https://criterioninstitute.org/explore/a-gender-lens>
- (14) Parallele Finance (2022) p. 4.
- (15) フェムテック (FemTech) とは、Female (女性) とTechnology (テクノロジー) を組み合わせた造語とされ、女性の抱える健康上の課題を解決するための商品やサービスのことを指している。詳しくは、Femtech Tokyo「Femtech（べいじ）存じなすか。」参照。 [https://www.femtech-week.jp/ja-jp/about/about\\_fem.html](https://www.femtech-week.jp/ja-jp/about/about_fem.html)
- (16) Parallele Finance (2022) p. 22.
- (17) 高坂正堯（一九六六）、「一三五〜六頁。

参考文献

- ・ Ben, Sandra Lipsitz (1993). *The Lenses of Gender: Transforming the Debate on Sexual Inequality*. Yale University Press. (福  
 富護訳（一九九九）『ジェンダーのレンズ 性の不平等と人間性発達』川島書店)

- ・ Parallele Finance (2022). *Gender Lens Investing 2022:2021 Year in Review and Addressing Persistent Gaps*. February 2022
- ・ Quinlan, Joseph and VanderBrugg, Jackie (2016). *Gender Lens Investing: Uncovering Opportunities for Growth, Returns, and Impact*. Wiley.
- ・ World Economic Forum (2021). *Global Gender Gap Report 2021*.
- ・ 高坂正堯（一九六六）『国際政治』（中公新書）、中央公論社

（まつお じゅんすけ・桃山学院大学教授）